

## 2 花壇苗育苗箱の工夫

花壇苗の生産では様々な工夫と新資材が導入されている。ここでは新しい育苗箱2点を紹介する。

### 1 木製トロ箱に代わるプラスチック育苗箱

木製トロ箱は、伊川谷花壇苗生産グループの専売特許のように利用されてきた。しかし、近年トロ箱が発泡スチロール化し入手が困難になってきた。

伊川谷町の岸野敏数氏は従来のトロ箱より約1.5cm深くし、滑り止めをつけたプラスチックの新育苗箱を製作した。これにより、定植後の育苗箱を積み重ねて、作業場からハウスへとフォークリフトまたは、軽四輪で運べるようになった。灌水等の日常管

理は従来のトロ箱と全く変わらない。

### 2 カゴトレイの上部をシルバーに

姫路市林田町の吉野清隆氏はカゴトレイの上部の色を黒からシルバーに塗り直し、高温期の良品生産に取り組んでいる。また、従来のトレイより1.5cm深くして定植後のトレイを数段に積み重ねるように工夫した。

夏期のパンジー栽培では、10月早期に出荷するほど有利に販売できる。しかしこの時期の気温はパンジーにとって徒長しやすい気温である。シルバーカゴトレイで、トレイとポットの温度の上昇を抑えて、秋出荷パンジーの栽培を容易にした。さらに、光の反射により葉肉が厚く、締まった株ができる。

曇天や冬季においても反射によりハウス内部が明るい等の特徴を持つ。新しいトレイにシルバーペイントを塗ることが肝要で、古い物に塗ると早く剥がれやすい。

三浦 行篤 (中央農技・普及指導室)

トロ箱と新育苗箱の比較

	価格	耐用年数	素 材
ト ロ 箱	150 円	3 年	木
新育苗箱	400 円	10年以上	プラスチック